

## [課程－2]

### 審査の結果の要旨

氏名 中嶋 祥平

本研究は、同種造血幹細胞移植（allo-HSCT）を受けた患者と介護者を対象とし、自記式質問紙調査と診療録調査を併用した多施設共同横断観察研究を行い、退院後の長期フォローアップ（LTFU）外来を受診した、allo-HSCT を受け 1 年半以内における患者とその介護者における健康関連 Quality of Life（HRQOL）と情報ニーズの実態を明らかにし、これらの関連について検討することを目的とし、下記の結果を得ている。

1. 先行研究における無菌室退室後の患者の HRQOL と比較すると、本研究の患者は機能面が高く、先行研究における HSCT 前の患者の HRQOL と比較すると、社会面が低いことを明らかにした。
2. 一般集団の HRQOL と比較すると、本研究の介護者は役割／社会面が有意に低いことを明らかにした。
3. 情報ニーズの尺度は、先行研究から項目を整理し、半構造的面接調査により質問項目の表面妥当性と内容妥当性を確認した 6 つのカテゴリー「HSCT 全般の情報」「退院後の治療」「HSCT の副作用や合併症」「セルフケア」「精神的・社会的問題への対応」「社会資源の提示」からなる 52 項目を作成し、患者と介護者それぞれに重要度と充足度を尋ねている。その結果、患者・介護者ともに、身体面に関する情報が重要であると評価し、心理・社会面に関する情報ニーズが満たされていないことを明らかにした。また、介護者の情報ニーズの平均点は、患者と比較して重要度が高く、充足度は同等であったため、退院後における介護者の情報ニーズを満たす支援も必要であることが示唆された。
4. Pooled Regression Actor-Partner Interdependence Model Approach を用い、患者と介護者のそれぞれの情報ニーズの充足度の平均点と、それぞれの HRQOL の関連を検討したところ、「全項目」（Estimates: 0.64,  $t(15)=4.98$ ,  $P<.001$ ）、「HSCT の副作用や合併症」（Estimates: 0.55,  $t(16)=4.88$ ,  $P<.001$ ）、「セルフケア」（Estimates: 0.73,  $t(13)=5.02$ ,  $P<.001$ ）に関する情報ニーズを満たすことは Actor 効果が、「精神的・社会的問題への対応」（Estimates: 0.35,  $t(13)=2.90$ ,  $P=.012$ ）に関する情報ニーズを満たすことは Partner 効果がそれぞれ有意であることを明らかにした。

以上、本論文は、allo-HSCT を受けた患者と介護者の HRQOL 及び情報ニーズの内容とその重要度・充足度を明らかにし、また、患者と介護者の情報ニーズの充足度が、患者と介護

者それぞれの HRQOL に与える影響について相互依存性を考慮し明らかにしており、本研究はこれまで未知に等しかった、allo-HSCT を受けた患者と介護者の HRQOL と情報ニーズを支援することを目指した LTFU 外来を始めとした具体的な支援の提案に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。